

令和7年9月 マーケット・トレンド・レポート

✿ 政治・国内動向：高市新総裁誕生

高市早苗氏が自民党総裁に選出されたことは、日本の政治において大きな転換点です。
特に以下の点が注目されます：

- **党员・地方票の支持が多く、地方・保守層の期待が高いことを示しています。**
- 「積極財政」「防衛強化」「経済安全保障」などを掲げる政策スタンスから、市場は「景気刺激的＝株高・円安」方向に反応しています。
- 一方で、自公連立の再調整や野党との関係が不透明で、**政治的安定性への懸念**もあります。
→ 市場は短期的にはポジティブ（株高・円安）ですが、中期的には政権運営力がカギとなります。

📈 経済・金融市場

- **日経平均：4万8000円台**
→ 史上最高値を更新。高市政権の「財政拡大期待」や、円安効果で輸出企業の業績が押し上げられています。
→ 2年前比＋約1.5倍という成長は、外国人投資家の資金流入も大きな要因です。
- **為替：152円台**
→ 超円安水準。金利差拡大や日本の財政出動観測が背景。
→ 輸入コスト増で生活面にはマイナスですが、企業収益にはプラス。
- **金価格：1g＝2万円超**
→ 世界的なインフレ懸念と、円安・地政学リスクが重なった「安全資産需要」。
→ 2年で倍増というのは異例で、「現金・貯蓄よりも実物資産・投資へ」という流れが鮮明です。

国際情勢：イスラエル・ハマス和平

- 戦闘から2年で、初の実質的な和平交渉進展。
 - 米国主導の「段階的停戦＋復興支援」案が鍵。
 - 合意が定着すれば、エネルギー市場の安定化にもつながり、世界経済にはプラス。
→ ただし、過去の経緯から「一時的合意」に終わるリスクも高いです。
-

気候・環境

- 猛暑の長期化が深刻。大阪で真夏日 100 日超えは観測史上初級の異常値。
 - 「四季が二季化」という表現が現実味を帯びています。
 - 一方で、寒暖差の影響により紅葉の発色が良くなる条件が整い、観光業には追い風。
-

企業・産業動向：ヤオコーの持株会社化

- ヤオコーが「ブルーゾーン HD」を設立し、M&A を加速。
 - スーパーマーケット業界では、人口減少と物流コスト増への対応策として、再編が進んでいます。
 - 文化堂・クックマートの買収は、関東から東海への商圈拡大戦略の一環です。
-

物価・生活動向

- 食品値上げ：3,024 品目／10 月
→ 原材料高・円安・人件費増が背景。
 - ペットボトル 200 円時代は、消費者心理にも影響。
 - 一方、イオンやすき家の値下げ発表は競争の活発化を示しており、「値上げ疲れ」に対する企業対応が進んでいます。
-

🎡 万博・観光関連

- 大阪・関西万博が「大盛況で閉幕へ」。
- 当初の懸念(費用・入場者数)を覆し、230~280 億円の黒字見込み。
- 「死に券問題」は課題ですが、**国内観光・外食・交通セクターの追い風**となっています。

🏠 社会・コンプライアンス

- 教育・スポーツ界での不祥事が続発。
- SNS 時代の監視強化や倫理観の再構築が求められています。
→ 今後は「ガバナンス」「再発防止体制」「透明性」を重視する流れが加速するでしょう。

🏈 スポーツ・文化

- MLB では**ドジャース(大谷・山本・佐々木トリオ)**が世界的な注目を集め、日本でもスポーツ投資熱が高まっています。
- プロ野球クライマックスシリーズ開幕、ラグビー・マラソン・駅伝など「スポーツの秋」の盛り上がり期待。

🔍 総括(全体の流れ)

- 政治: 変化の年(高市政権発足で政策転換期)
- 経済: 円安・株高・インフレ(投資市場は活況)
- 社会: 倫理と透明性の再構築
- 気候: 異常気象と新たな観光資源

📌 総じて「変動の中にチャンスがある時期」です。

ただし、円安・物価上昇が続くため、**実質購買力の維持策(賃上げ・節約・投資分散)**が今後の生活課題となります。